

## ゼミ活動 (Active)

4月～6月：梅雨明け間もない沖縄県座間味島で開催される「サバニ帆船レース」での完漕を目標に、エーク (パドル) の制作や学内プールおよび栗山にて練習をおこないます。また、研究室で所有している沖縄伝統漁船であるサバニ (2013年購入) を整備するために年に数回座間味島へ赴き、練習合宿を行っています。レースは梅雨明けの沖縄で、座間味島一部敷港間の約36kmを6時間ほどかけて海峡横断します。

12月：スクーバダイビング認定証取得またはステップアップのための講習会を実施します (伊豆)。

1月～3月：ゼミ必修活動として、フルマラソン (42.195km) にエントリーします。また、スノースポーツ合宿を行います (長野県・福島県等)。



サバニレースの様子。千足研究室では2009年より参加しています



スノースポーツ合宿



ゼミ生は全員フルマラソンにエントリーします



スクーバダイビング合宿



**チャレンジ精神, 辛いことに耐える力, 自然の素晴らしさと大切さ等について体験を通して学びます**

## 本研究室における卒業研究・修士論文など

平成21年度  
砂浜とコンクリートでの全力疾走における下肢筋放電  
飲酒が25°Cの水泳中における体温および塩分と及ぼす影響  
短期間の海辺プログラムが4から7歳の子どもに与える影響  
スポーツライバーの健康安全管理に関する調査研究  
海洋リテラシー-基本原則は教育現場でどのように取扱いが可能なか

平成22年度  
登山時における飲酒が生体に及ぼす影響  
水中ホッパー-競技の運動強度と行動分析に関する研究  
海の自然体験活動に関する小学生保護者への意識調査  
大学の実習が参加者の海洋リテラシーに与える影響  
ソーカッカーの体験を期待及び満足に関する研究  
市民トライアスロン (アイアンマン・ディスタンス) のレース分析

平成23年度  
海泳を含む集中授業が大学生の海洋リテラシーに及ぼす影響  
息こらえトレーニングが息こらえ時の心拍数変動に及ぼす影響  
3か月間の息こらえトレーニングの効果に関する研究-息こらえ時間と肺機能に着目して-  
飲酒が水温30°Cにおける水泳中の体温と塩分に及ぼす影響  
海水浴者の飲酒に関する調査研究-選手層における実態調査-  
動向と体力水準との関係  
海洋教育プログラムの評価および学校教育への導入可能性に関する研究 (修士論文)

平成24年度  
蘇子海、鎌倉海、電子市の海で活動する人々を対象とした海面利用に関する研究  
海水浴業者における作業の実態に関する研究  
息こらえトレーニングが息こらえ時の呼吸血流量とSo<sub>2</sub>に及ぼす影響  
カッター-結果体験が参加者のカッターや海に対する意識および気分状態に与える影響  
水辺活動を実施する際の学校教育機関と特定非営利活動法人の連携可能性-三浦半島における実態調査研究-  
競艇における広範囲活動の効果に関する研究  
水辺活動体験が小学生の海洋リテラシーに及ぼす影響  
都市部におけるソーカッカー体験活動が参加者の心理状態に及ぼす影響

平成25年度  
東京海洋大学海洋科学部1年次生における運動能力測定値の推移とカッター-競技選手の体力について  
潜水漁業者を対象とした操業実態把握の試み及び健康調査 (修士論文)  
大学生の海洋リテラシーに関する調査研究 (修士論文)  
アウトリガーカヌー-体験が参加者に及ぼす影響 (修士論文)

平成26年度  
水上オートバイ愛好者を対象とした調査研究  
東京海洋大学海洋科学部1年次生における泳力に関連する要因の検討  
カッター-活動の教育的効果に関する研究 (修士論文)  
海辺の体験活動が参加者の海洋リテラシーに及ぼす影響 (修士論文)

平成27年度  
スクーバダイバーの健康管理に関する調査研究  
市販される呼吸器トレーニング機械が呼吸機能に与える影響  
キヌサオアゲル付による腰部血流、背骨神経伝導および腰部筋の圧痛の長化に関する研究 (修士論文)  
海洋スポーツ・レクリエーションにおける専門志向化と主観的幸福感・レジャー満足度に関する研究 (修士論文)

研究室の研究テーマ  
1) 水辺での体験活動の教育効果に関する研究  
2) 息こらえ潜水に関する研究  
3) 飲酒が及ぼす影響に関する研究  
4) 水辺での安全と健康に関する研究  
5) 水上・水中・水辺を活用するスポーツ活動に関する研究

## 研究プロジェクト/研究・教育活動など



科学研究費補助金 (研究成果公開促進費) 198046:  
ウォータースポーツ文献情報データベース  
2007年4月1日～2008年3月31日

国内で行われた海洋スポーツに関連する文献を収集し、ファイリングするとともに、書誌情報と加工抄訳を作成する作業を随時実施しています。これらのデータをデータベースに登録し、WEBで検索できるようにしています。現在のコンテンツ総数は約1,700件です。  
(http://wsdb.nifs.k.ac.jp/にて公開中)



科学研究費基盤 (C) 一般 - 19500540:  
セーリング競技におけるコーチング支援システム開発のための実践的研究  
2007年4月1日～2009年3月31日

Global Positioning System (GPS) 受信機を用いて、セーリング種目におけるコース選択に最も影響を与える風速及び風向についてのデータをレース海面上で収集するとともに、航跡(軌跡)情報をレース後に選手に提供し、選手自身の主観的な判断・選択との間に差が生じているのかについて検討することを目的としました。



科学研究費基盤 (C) 一般 - 21500554:  
海辺の体験活動による海洋リテラシーの獲得と評価に関する基礎的研究  
2009年4月1日～2012年3月31日

海洋リテラシーの評価方法について検討するとともに、海辺の体験活動による海洋リテラシーの獲得についての調査を実施するものです。平成19年4月に成立した「海洋基本法」に謳われている「海洋に関する理解」を評価するための調査用紙を開発し、それを用いた横断的調査を実施しました。



科学研究費基盤 (C) 一般 - 24500811:  
息こらえ潜水者の行動と生理学的側面から見た安全システムの提案  
2012年4月1日～2015年3月31日

息こらえ潜水にて漁業を営む海女の潜水時における行動と生理学的なデータを収集・分析することにより、息こらえ潜水が身体に及ぼす影響を検討しようとするものです。息こらえ潜水についてのバイオメカニクスや生理学、水産学にも関わる学際的な研究として位置づけられます。



科学研究費基盤 (C) 一般 - 15K01516:  
海洋自然体験への継続的参加によるライフスキル獲得に関する基礎的研究  
2016年4月1日～2019年3月31日

海洋自然体験活動に継続的に参加することによるライフスキルの獲得について、長期継続的に指導を実施しているベテラン指導者と継続的に活動を実施している参加者を対象として質的および量的データを収集・分析することにより、ライフスキル獲得のモデルを構築し、海洋自然体験が日常生活に汎化する可能性を明らかにすることを目的としました。



マリンスポーツ実習 (沖縄県波嘉島)



研究室における実態



台湾での国際学会 (毎年参加)



研究室における実態



アイアンマンレース (趣味の活動)



100kmフルマラソン (趣味の活動)

上記のような活動のほか、様々な海洋関係団体との協力、講師としての活動も実施しています。

千足耕一 (あし こういち) 兵庫県神戸市生まれ O型 おひつじ座

筑波大学野外教育研究室で海のスポーツ、山のスポーツ、キャンプ活動を学ぶ。  
前任校 (鹿屋体育大学) では海洋スポーツセンター勤務 (ヨット部・ウィンドサーフィン部顧問)  
東京海洋大学に平成20年9月1日より赴任。学部生・博士前期課程・博士後期課程の指導に当たる

☆やる気のある学生を募集しております☆